

旭窓会報

第 13 号

発行
旭区高殿 5-6-41
大阪府立旭高校同窓会
発行人 西中紀博

編集
旭窓会報編集委員会

印刷
サンライト
0723 (36) 3505
(34) 1832

挨拶

同窓会長

西中紀博



いよいよ旭高校も来年で而立の年を迎えることとなりました。同窓生の皆さん、母校が一人立ちする年になりましたことは御同慶の至りで本当に嬉しく存じます。この三十年間、私達を導いていただいた歴代校長先生を始め、諸先生方が旭の教育のために営々として築いていただいた芳に皆さんと共に心からお礼を申し上げます。今年と同窓会はすばらしく変貌した母校に集い、なつかしい校舎や新築なった体育館な

ど皆さんの目で確めていただけたらと思い、母校「旭」で開催することとなりました。

わが同窓会は今日まで何とか皆さんのお力で維持されてきましたが、今日の物価の上昇により維持運営のための経費が逼迫しております。従って本年の総会で同窓会費の値上げをさせていただきます。詳細は総会時に私の方から御説明したく思っておりますが、この会則改正の件、どうぞよろしく御理解下さい。

るよう本紙を借りてお願い致します。また、本年は長年同窓会のために貴重なアドバイスをいただいた井上校長先生が退職され代って辻野校長が御着任になりました。前校長井上先生には何かと本当にありがとうございました。どうぞ今後とも旭の同窓会を引き続き御指導賜りますようお願いすると共に、校長先生の益の御健康、御多幸をお祈り申し上げます。

辻野校長先生、どうぞ同窓会の益々の発展のために、これからどうかお力添い戴きますようお願い申し上げます。

同窓生の皆さん、八月九日にお会いできることを楽しみにして挨拶と致します。

卒業生 8月9日(日) 母校に全員集合!!

— 総会懇親会のご案内 —

母校も来年四月で、満30年になります。同窓生も一人を越えました。同窓生の皆さんはそれぞれの場でご活躍の事と存じます。

さて、本年は前回の総会から三年目を迎え、総会を開催する年になりました。本年は趣をかえ、母校で行ないます。なつかしい先生方も多数御出席いただく予定です。母校の変貌を見にぜひ、お誘い合せの上、ご出席下さい。ここに、ご案内申し上げます。

記

日時 昭和五十六年八月九日(日)
午後二時～五時

場所 母校体育館及び旭窓会館(地下鉄・谷町線関目駅下車 スグ)

○総会次第

- 一、開会の辞
- 二、会長あいさつ
- 三、学校長あいさつ
- 四、議事
- イ、行事報告
- ロ、会計報告
- ハ、会計監査報告
- ニ、会則の一部変更
- ホ、新役員選出
- ヘ、その他
- 五、閉会の辞

○講演会
校歌披露(旭高音楽部)

○懇親会 三時～五時
費用 二、五〇〇円
(但し二十四期以後 二、〇〇〇円)

会場準備の都合上出入欠を同封のハガキで(切手を貼付下さい)七月三十一日までにカナラズ御返事下さい。尚、マイカーでの御来校は御遠慮下さい。

旭高文化祭は九月十九日(土)二十日(日)体育大会は九月二十九日(火)です。ご来校下さい。

会則の変更について

今回の総会の議案の一つとして、次の二条の変更が提案されます。

- 一、第13条1、通常総会は3年に一回、会長が招集する。
- 案、1、通常総会は2年に一回、会長が招集する。
- 二、第16条 本会の会費は一、〇〇〇円とし入会と同時に納入する。

案、正会員は卒業時に会費を納入する。その額は役員会で決定する。

(本年二、〇〇〇円)

「あつさし」

学校長 辻野鹿雄

本年四月一日付で、井上良治先生の後任として、本校の校長を命ぜられました。本校は創立以来既に三十年を経過します。古来三十年といえど一世代と考えられ、歴史も何らかの変動発展をみております。個人の立場からも三十才は「而立」と称せられて人間独立の自信の固まる年数でもあります。このような意味において本校は府立の高等学校の中心においてもゆるぎない地位を確立しております。歴代校長先生や諸先生方の積み重ねられて来た教育に対する意欲が「伝統」という形でそこに、息づいているのを感じます。卒業生の方々も一期の卒業生の方々は不惑の年をこされて、各方面にすばらしい活躍をされています。在校生の諸君も中学校時代よりよく学業に励まれて好ましい人間的な性格を身につけて居るよ

うに見受けれます。このような学校に着任いたしました誠に光栄に存じています。過去三年間新設校の校長として、新しい学校づくりと没頭して参りました。九〇パーセントを越す入学率の今日、高等学校教育には多様な問題をか、えて居ります。六・三制の教育制度やこの制度に基づく教育の中心味が再検討されるべき時期に來ているように思われます。もっと突込んで申しますと全米教育委員会協議の機関誌ASBJに、アメリカの中学校は国内で最も治安の悪い場所、都市の若者の犯す強盗・脅かすの四〇％、傷害の三六％は学校で起っている」と報じています。



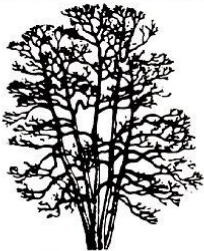
（全善会報四〇頁より）
最近の中学の暴力事件等を考えますと日本教育も例外でないような気がいたします。高等学校も、中学校からおしよせる波を去けて通ることはできなくなろうと思ひます。すぐれた教職員とすぐれた生徒達が培って来た伝統を汚すことなく、より一層光彩を放つ学園として充実発展を遂げたいと思ひます。卒業生の皆さんや、PTAの各位の温かいご支援のもとに、教職員一丸となつて負荷の職責を果したいと念願いたしております。温いご支援をお願い申上げる次第であります。終りに同窓生の皆さん方のご健康と一層のご発展を祈念して着任のご挨拶いたします。（終）

「退職にあたって」

前校長 井上良治

卒業生の皆様方には、各方面でお元気で活躍のごと、お喜び申し上げます。旭高校の卒業生も二十六期生（五十五年三月卒業）で一万人を超え、同窓会が一層、充実発展してまいりましたことはご同慶に存じます。去る五十二年四月、旭高校に着任以来、種々と問題の多い高校教育の中で何とか勤務を果たすことのできましたのも同窓会の皆様方のお力添えの賜物と心からお礼申し上げます。とくに、体育館の改築・竣工の折には、同窓会から多額のご寄付をいただき、二十五期生の卒業記念と合わせて体育館舞台の緞帳を新調することができました。改めてお礼申し上げます。旭高校に勤務いたしました三年間は、建築に明け暮れた三年であつた感を深くしております。体育館は、設計について

の折衝を含めて一年二ヶ月を要しました。立地条件の関係から皆様方の馴染みの深かった旧体育館をとり壊し、その跡地に約一・五倍の広さの新体育館を建設いたしました。高校進学者の増加と新設校敷地の入手難等から既設校での増学級が第三学区でも策定され、旭高校もこれに該当しました。普通教室を五教室増築するには、本校の敷地状況からみて困難でありました。普通教室は授業の中心の場でありますのでどうしても両面する教室でありたいと思ひ、止むを得ず、皆様にとつては懐かしい図書室、保健室を移築することいたしました。想い出のあるこれら特別教室を変えることについてはかなり躊躇をしたのですが、他に方法もなく皆様方にもご理解していただけるものと思ひ工事に着工しま



した。この工事も本年三月無事完了いたしました。旭高校も来年、創立三十周年を迎えます。一度母校を訪ねていただき旧交をあたためて頂きたいと思ひつております。終りになりましたのが、私の後任には布施北高校の校長であられた辻野鹿雄先生をお迎えしました。先生は人格、識見とも優れ又現場経験の豊かな方です。旭高校を一層、充実、発展させていただけるものと信じております。

運動方程式を

教えて十八年間

前教頭 橋 岡 光 隆

運動方程式を教えて十八年間。今は懐かしい旭を離れ、東淀川高校で相変わらずの毎日を送っております。

旭での物理の授業の二こま。どうかしてニュートン力学、そしてその基礎である運動方程式を理解してもらいたい。そのことばかりに明け暮れた一つの思い出があります。

生徒達の力学の図や問題の解答をみますと、力が働いているのに加速度が書かれていない。また問題で加速度を使っているのに力が消えてしまっている。なんとかして「 \parallel 」の神髄を理解してもらいたい。一心から、あるクラスで、苦しまぎれに「Fはファーザー・mはマザー・aは日本語で子供と覚えておきなさい。Fがなければaは生まれません。aがあるのにFがない苦はない。」 $F \cdot m \cdot a$ の三つ組は社会発展の源泉であり、宇宙の真理である」

とおおまじめにチョークで黒板にベクトルを押し書いた記憶があります。しかし今から想うと、果してこれで理解してもらえたのだろうかと恥じ入っております。おそらく同窓生の皆さんにはあのときの運動方程式はとつくの昔に忘れてしまわれたことでしょうが、洒落にもならない世話だけは覚えていて下さる方もあろうかと存じます。

閑話休題―授業だけでなく、修学旅行でと私の人生の最も充実した時期を過ごさせていただいた旭の十八年間、真の意味において教師として、両親(F・m)の気持になつて皆さん方を導いてきたのだらうかと危惧も申し訳なくも思っております。旭の歴史も教えて三十の年輪を刻み続けてまいりました。朝日におう桜花のように、これからの旭をさらに輝かしいものと加

昭和53年度～55年度同窓会会計報告

速的に前進させる原動力は「a」に相当する同窓生の皆さんのたくましいエネルギーに俟つところ大なるものがあります。旭に育つた「F・m・a」もともに手をとりあつて精一ぱい精進しようではありませんか。御健勝、御発展を祈ります。

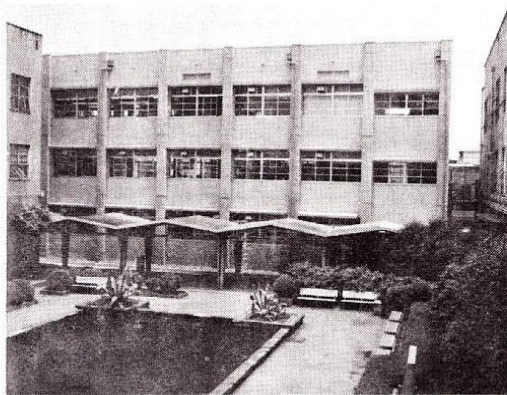


体育館・図書館

音楽室等

完成す。

55年度より増学級のため校舎が54年度より大巾に増築されました。54年5月体育館の改築が完成し、一、〇〇〇㎡からの大型になりました。柔道場及び音楽教室の跡に特別教室が55年9月に完成しました。一階は保健室と会議室、二階は図書館、三階は音楽室です。



中庭より新館をのぞむ

『旭への足』

村上 豪

旭高校への通勤の足として、最初に使ったのは、中古の再生自転車であった。

これは、厳密に言うると、「中古」でさえない。廃車の部品の使える部分ばかりを集めて組立てた、文字通り、「再生」した自転車であった。

「再生」した自転車であった。しかし、二千円位であったと思うが、これを、新任の頃から四、五年の間に二台乗りつぶした。

次は、さすがに当時としては、最新式の軽快車、のナショナル自転車を二万数千円で買求め、十ヶ月月賦で代金を支払った。この当時、私の給料も、二万数千円であったから、相当な出費であったと思う。

この自転車は、月賦も支払わないうちに盗難にあったが、それにもめげず、二台目を同じく、月賦で購入した。この方は、長持ちして、最後に不要品回収に出すまで、十年以上も乗ることが出来た。

次の、足は、オートバイにしようと思ったが、モーターゼーションの風潮の盛んな時で、思いなおして、

オートバイを2台買ったつもりで、軽自動車「スバルR2、360cc」を購入し、これには6年乗った。「三十五万円で買ったと思うが、このときの給料は、たしか二十万位だったと思う。

これを下取に出して、現在、足かけ六年目になるカローラ「30」を八十万程で買うことになった。

これで私の、旭高校での勤続年数と合うか、合わないのか、よく分らないが、現在の心境は、正直言って、「浦島太郎」の様に、「三日」位しか、通った気がしないのである。

皆さん、お元気ですか。私も相変わらずの調子でやっているうちに、いつのまにか旭の古顔（それでも四番目ですが）になってしまいました。それでいて、そんな感じが未だにピンとこない昨今です。

ひまわり

坂口 登

二十期と担任して、よき思い出として胸のうちに残る懐しい諸君とあえるのを楽しみにしています。三年に

一期会だより

一期生は、一昨年10月より高橋昌明君の御尽力により名簿の整理にか、昨年2月24日に梅田の北京にて懇親会を開きました。綾仁先生を始め十数名の先生方の参加を頂き総数60名程が集まり、20年ぶりに高校時

代にもどり楽しいひとときをすごしました。

今年も総会が母校でもたれます。母校の変貌を見に来て下さい。総会当日お会い出来るのを楽しみにしています。(記 辻本)



一期会 S55. 2. 24 於梅田「北京」

一度の久しぶりの同窓会、元氣な姿をみせ、大いに語りあって下さい。

に三期会を開きました。三期生五十数人と懐しい恩師が、七名も参加して下さい、ワイワイと懐しく楽しい一日となりました。

この三期会をもつことになったきっかけは、同年八月に開かれた同窓会総会の席上で、当日参加していた三期生数人が、「一度やろうや」という話になったことです。

いづれも四十才を過ぎ、や、落ちつきはじめた世代で、部分的には、ミニ同窓会が、あちこちで行なわれていることもわかり、一度みんなに呼びかけようとなったものです。

手分けして、連絡をとり

合い、その中で多くの人の居所も新たに明らかとなりました。そこで、三期会のあと、報告をかねて、全員に新たな名簿を発送したり、その後も連絡をとり合い、今年も、再び三年ぶりにやろうという声があがっています。

さらに、全体としても連絡が、よくとれるようになり、小単位での同期会も活発になってきました。

当日三期会にご出席いただいた先生方は次のとおりです。(敬称略)

坂本正一、辻野勤、富永公一、高橋京平、長野元泰、山本茂雄、大前富雄

(三期) 二宮金吾

三期会

盛大に開かる。参加60人

昭和五十七年十一月十二日(日)、卒業後二十年ぶり



三期会 S53. 11. 12

母校にもどって

二十三期 入江 佳代子

「もし、もしもよ、旭に行けたら、どんなにかいいのね。」

教育実習を終え、試験もすんで、私が高校の社会科の教師になると、昔からの友人に伝えたと、いつでもみんな決まっていた言う。誰もが旭で過ごした時代を忘れてしまっている。それだけでうれしくなるのに、あれほど仮定の「もし」をつけていたのに、まさか現実になるなんて、友だちのうちひとりでも考えただろうか。当の本人が一番驚いているのだから。

とまどいながらも、教師として旭に勤めはじめて早くも三ヶ月がすぎた。ようやく「先生」と呼ばれたら自分のことだとわかるようになったけれど、まだ気恥しさは残っている。なつかしい校舎、教室の落書き。あちらこちらに、おさげに制服を着た私の影がある。おしゃべりする生徒たちに四年前の私たちを見て、そ

こだけ時間が止まったような錯覚をおこす。

しかし、教わる方から教える方へ、立場は全く逆転してしまっただけ。いつまでもなつかしいと甘えてばかりはいられない。日を追う毎に、教師の難しさを実感している。でも、幸運にも母校。恩師の先生方がたくさんいらっしゃる。以前と同じくいろいろご指導していただいている。これから少しずつでも、教師として成長してゆけたら、と思っている。

旭を愛する心は誰にも負けないつもり。私が旭で得たもののひとつでもいいから、これからの後輩の方に分けてあげられたら、どんなに素敵だろう。そのためにも、明日もまた努力。



「二週間の体験」

二十四期 滝沢 正俊

誰もいない数学科準備室で生徒に書いてもらった感想を神妙な気分で、ときに笑いこけたりしながら読んでいます。今は2週間がやっと過ぎたというよりも、何とか感じが揃ってきてそろそろ本性を現わそうかなと思ったり最終日となってしまうことが残念です。実際に自分が教壇に立つてみて、またまわりの先生方を生徒の時とは違った角度で眺めてみて、教師という職業がいかに大変であるかということが始めてわかったような気がする。

だが、授業をして何とここちらの言ったことを理解してくれただけではないかという反応があったときの快感は忘れられない。もちろん、そのようなことは実習中にほとんどなくて、のんびりとした捉え所のない(ヤマがないともいわれた)しかも冗談のいいにくい数学の授業で、超低音でスロ

ーな語りで生徒を夢の中へ招待したり「わからん」と言われたのもつとやさしく説明するつもりがえつてややこしいことを口走って生徒の頭の中を完全に混乱させてしまい、次の日も一度同じところを説明し直さねばならなかったり、理解してくれなかったものや信じて小テストをしてみれば予想通りの出来の悪さだったり、教えることの難しさを痛感した。



「実習をふり返って」

二十四期 湯浅 尚子

長いようで短かった教育実習が終りを告げました。実習当初は、不安がいっぱいで、右も左も分からぬまま時を過ごしていたという状態でしたが、今ふりかえると、辛い事、嬉しい事など、様々な想いがこみあげてくるのを、抑える事が出来ない私です。

最初の授業の時は、生徒の顔をまともに見る事が出来ず、ただひたすら板書を行ない説明をしていたという実感しか残っていません。私なりに色々考え、努力したつもりなのですが、結局、私は授業を行なう事のみを考えるようになり、生徒との心の触れ合いが、おろそかになっていくという事に、少しも気づきませんでした。

最後の日に、生徒達に感想を書いてもらった所、多くの人が「もっと柔らかい口調で話してほしい」というような事を、書いていたように思います。

私は、生徒との心の触れ合いを大切にしたいといつも考えていたにもかかわらず、いつの間にか、その事を忘れた授業を行なっていたのだという事を、今つくづく反省しています。



けれども生徒達は、皆んな、そんな私にでも思いやりを持って接してくれていたように思います。

最後の授業時に、生徒達は、私に歌をプレゼントしてくれました。私は、涙が出る程嬉しかったです。この教育実習の経験を生かして私はこれから生きて行くこうと思います。けれどもいつの日も「人の心」を忘れない私でありたい。あの生徒皆んなの事、決して一生忘れないと思います。

皆んなどうもありがとう。そして、いつまでもお元気で……。そう願わずには、いられない私です。

旭温泉

二十七期 青木宣雄

「旭温泉のぬるま湯にどつぶりつかっている。と、幾度となく言われながら、この春、私は卒業した。その直後、旭温泉には強烈な電流が、教育委員会によって流され、ぬるま湯が電気風呂になった。

私は、いい刺激になっただろうと思っていたが、先生らは、何も思えてへんみたい。別に生徒は気にしてへんわ」という在校生の言葉を耳にした時は、一種異様な憤りを感じた。

「電気風呂」、肉体的に疲れている人が入れば「気持ちよくなった」と言うだろう。健康な人ならば少し痛みを感じるなど、不快感を訴えるはずだ。それならば、旭温泉が電気風呂に変貌した瞬間、異常を訴えた教師がいてよいはずである。また、「気持ちよい」と感じたならば、自分の異常に気づき、原因究明に乗り出す教師もいてよいはずである。果たして旭高校には、そういう教師が何名いたのであ

ろうか。

さて、「生徒の鏡は教師である。」という言葉、今の旭高校では、そうあつてほしくない一面がある。教師の権利ではあるが、自由出退・昨年の教員ストによる授業ボイコット、こんな姿を見せられては、生徒の学校生活が乱れていると言つて、規律を生徒に強要することは矛盾していると思う。個人の権利だと言つて、自由放任主義を唱える教師には、教育を口にするにとすら慎んでもらいたいという思いは、旭高校在学中も、今も変わらない。

最後に、生徒は、ただその人を見て出るだけで、師と敬える人の出現を望んでいる。そして、体の芯から温まれる旭温泉に早く変わってこれることを私は切望している。



母 校 人 事

昭和五十四年度から五十六年度にかけて、次の諸先生方がそれぞれ転出されました。

- 五十四年度
倉西 博之(国語) 金蘭短大へ
若林 秀昭(国語) 枚方西高校へ
湯川 光彦(社会) 科学教育センターへ
長谷川正夫(主査) 野崎高校へ
阪本 忠昭(主事) 長野高校へ
上松 里美(主事) 東住吉工高へ
- 五十五年度
橋岡 光隆(教頭) 東淀川高校へ
黒田 進一(数学) 芥川高校へ
塩谷 博(英語) 守口高校へ
国場世津子(実習助手) 香里丘高校へ
伊原 邦江(主事) 西寝屋川高校へ
塩野 幸一(技能員) 八尾南高校へ
井上 良治(校長) 関西女子短期大学へ

杉村光一郎(国語) 門真西高校へ
以上の諸先生方が転入に伴い、次の諸先生方が転入されました。

- 五十四年度
田中 光彦(国語) 長尾高校から
中村 一郎(国語) 新任
松川 健治(教頭) 八尾高校から
池田 功(社会) 柳田小学校から
久世 武志(数学) 新任
小和田 稔(理科) 新任
小島 哲弥(体育) 新任
伊藤 章(英語) 長尾高校から

最近の進路状況

進学状況・内訳

〔国公立大学〕	54年度	55年度	56年度
京 都 大	1	0	0
大 阪 大	2	0	0
神 戸 大	4	0	6
大 阪 市 大	13	19	8
大 阪 府 大	10	11	15
大 阪 教 育 大	15	8	12
大 阪 外 大	3	0	3
京 都 工 大	3	3	5
鹿 児 島 大	0	3	0
そ の 他	32	26	22
計	83	69	71

〔私立大学〕	54年度	55年度	56年度
関 西 大	71	92	97
同 志 社 大	31	32	55
関 命 館 大	49	45	67
関 学 大	29	37	29
竜 谷 大	12	8	24
甲 南 大	9	15	30
都 産 業 大	7	18	15
早 稲 田 大	3	0	4
そ の 他	—	—	—
計	211	247	321

就職者・内訳

	54年度	55年度	56年度
製 造 業	8	8	9
保 險 業	6	6	5
電 気 業	1	1	1
公 務 員	3	3	12
そ の 他	2	2	8
計	20	20	39

追 悼

妹脊一弥先生が本年四月御逝去されました。先生の御冥福をお祈り申し上げます。

宮本 佳子(事務) 五十六年度
辻野 鹿雄(校長) 布施北高校から
小林 雅美(国語) 柏原東高校から
入江佳代子(社会) 新任

御援助ありがとうございます。
ございます。

皆様のご協力により、順調に寄附金が集まり、現在八八九、〇〇〇円になりました。寄金者氏名は左記の通りです。

今後とも継続していきたいと考えていますのでご協力下さいますよう重ねてお願いいたします。

なお、お寄せいただきました寄附金の内二十五万円を新体育館の綴帳費の一部に使用させていただきました。残額については本会運営に大切に使用させていただきます。それぞれ御礼状を出すべきところですが本紙を借りて厚く御礼申し上げます。

同窓会 二年に一回に!!

より一層の御援助を!

母校の三十周年記念行事にあたり、同窓会としてもまとまった寄附を考えています。

総会も次回より二年に一回の方針で行なう予定です。現在では一度会報を発送しますと百数十万円も必要です。会報の方は入会金で何とかやっつけていける状態です。そこで、三十周年の寄附金を役員会で検討してきました結果、皆様に御協力をお

皆様どうも
ありがとうございます
ございました。

願う事になりました。

事情を御理解下さって是非ご協力をお願いします。

同封の払込用紙にて一口千円で、できましたら一期から十期までの方は三口以上、十一期から二十期までの方は二口以上、それ以降の方は一口でお願い致します。



も早く、新居の住所・電話番号・郵便番号などをお忘れなく、お知らせ下さい。

○ご友人の本会会員、ご兄弟・ご家族の中で母校ご出身の会員方の移動・変動があった場合も、どうか、ご協力下さって、お知らせ下さいませよう。

○住所変更・改姓などのご通知はぜひ官制ハガキでお願いします。間違うといけませんので……。

「原稿募集」

各期の会合記・クラブのOB会、在学当時の思い出やエピソード等会員からのご投稿をお待ちしています。原稿メ切は一応総会の年度の四月末日です。

事務局からのお願い

○住所標示の改正や移転などの時、できる限り早く、お知らせ下さい。
○ご結婚・ご改姓の場合

バレー部

OB集合!!

旭高校男子バレーボール部出身の皆さんノ元氣に過ぎでしょうか。毎年、夏休みになると、OB会を行ない、徐々に、その集まりは、盛大になってきているのですが、今ひとつ、盛り上がり欠けているように感じます。OB会、いったいどう言った事をするのかといえますと、新しくなった体育館で現役チーム(現在II部)とOBチームが、ゲームをし、あるいは、OBの人数によっては、二、三チーム作ってリーグ戦をして、久しぶりのバレーボールを楽しみ、夕方より打ち上げをして、昔話、又、近況報告などをして一日を過ごしています。もちろん、現役に対して、ムガンパレオ費なるものを集めて送りますが、毎年、気持ち程度であります。

今まで、旭バレー部から、多くの人々が卒業されています。その人数分の考え方が、OB会なるものに対してあると思います。A氏は「今さら、高校時のバレー仲間にあっても!」また、B氏は「俺、あんまり現役時に、活躍もせえへんかったし、目立ってなかったしなあ!」ほんとうに、いろいろな考え方があろうと思います。我々、OB会執行部としては、そう言った、いろいろな考えを超越し、「ただ、昔、一緒にバレーボールを追いかけた仲間と会いたい、きびしかった先輩、よう、しごいたった後輩の成長した姿を、久しぶりに、ほんとうに久しぶりに見たい、会って昔のいろいろな話をしたい」というその純粹な精神に、のっつって、この「OB会」を行事化しています。

今年も、この「OB会」が八月二日(日)にやります。皆さん、ご多忙中とは思いますが、なんとか、ご都合よろしく、一度来て下さい。「学生や商売人は、ええわな」なんて言わずに、やりましようよ。バレーを!!

旭バレー部OB会